

切れたしっぽの赤毛の猫の希望

私はこの家に 10 年以上住んでいる。ほぼ毎日、バルコニーから通りで起きていることを観察している。普段私が見るのは、繁華街へ行くために飛ばす車たち、犬を散歩させる女たち、おしゃべりをする人々、そしておそらくビールをいくらか飲んで少し大騒ぎをする人々である。毎晩、私は切れたしっぽの赤毛の猫を見るが、それは、ながらく私の理解しているところでは、通りの絶対君主なのだ。猫は駐車してある車の中を、偉い長である確信とともに、静かに散歩する。ここ数晩、一週間とちょっと、人が通るのを見ていない。車も、犬を連れた女たちも、若い騒ぎ屋たちも、家に帰ろうとして千鳥足で歩いている酔っ払いも。しかし猫は、切れたしっぽの赤毛の猫は見るのだ。猫は、何日か駐車したままの車の間を、いつものように威厳のある風貌で行く。いつもの軽蔑した様子で回りを見渡す。時折、通りの静寂の中で、視線を上げ、窓から眺めている私を見る。その眼差しで、猫は私に語りかけ、言う。「友よ、心配するな、すべては過ぎ去って、また以前のようになるだろう。我々はまた我々自身になるのだ。私は通りへの闖入者を追い払うべく車の下で横になる生活を続けるだろうし、おまえは、自分の用事や、散歩や、出会いや、日常の出来事をもった、以前の人間に戻るだろう。」私は猫がゆっくりと遠ざかるのを見る。しかし、その眼差しのおかげで、私は自信を取り戻す。私は少し楽観的になり、切れたしっぽの赤毛の猫や私自身がずっと生きてきた生活が、やがて以前のように再び帰ってくると考えるのだ。

ステファノ・ドリア